

彙報

京都帝國大學文學部哲學科
大正十年度卒業論文題目

○哲學專攻

プラトール後期における論理に就て
「プロクヌス」の哲學に就て

リツケルトの認識論に於ける實在と價值
カント認識論に於ける對象性の問題
善の理想

○印度哲學史專攻

阿毘達磨俱舍論にあらはれたる
七十五法論と因果論とに就きて

○心理學專攻

Psychologie der Liebe.

○倫理學專攻

人格の本質より觀たる實踐道德論(一名父子道論)

○教育學教授法專攻

教育と政治

宗教々育の意義を論じ眞宗の教義に及ぶ

○美學美術史專攻

プロウテノスが審美觀

○宗教學專攻

△選科生
委托生

加川航三郎
橋寺 太郎

觀山 雪洲
伊東 法俊

○菊池慧一郎

二之宮善亮

増田 正

山添恒治郎

高山 直通
鷲谷 龍澤

○山内 朝資

一 二六

藤井 祐正

○社會學專攻

利益分配法之研究
藝術の社會學的考察

魯西亞虛無主義の社會學的研究

山崎英次郎
佐原 六郎
金杉 恒彌

哲學倫理學研究會

二月十六日午後六時より學生集會所に於て卒業生・環徒會を兼ねたる例會を開き、左の講演あり。

救済及解脱の原理

文學士 久松 眞一君

新著紹介

國民道德論

藤井健治郎氏著

著者から一本を賜はつた事を感謝し、今通讀するに當つて思ひ浮んだ儘を忌憚なく書かせて頂きます。

特に注意を惹くべきことは「卷首」に著書も認めて居らるゝ如く是迄國民道德を取扱はれた多くの人々の意見とは餘程異なつて居ることである。何がその趣きを異ならしめたか云ふに夫れは國民道德に對する著者の態度が他の人々のご同じくないことである。在來の論者が概ね素朴的に我が國民道德の讚美者・謳歌者であり國士的口吻を藉りてのわが特有道德の説教者であつたに對し本著者は飽くまで研究的、批判的態度を持ち國民道德の建設者たらんを期せらるゝことである。

「國民道德の意義及其の倫理學との關係」に就いての基本的問題